

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（後期）

平成28年1月29日 作成

校長 秋山 均

記述者 職名（教頭） 河西 慶仁

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び、よく考える子ども（自分の考えを持って）
- 徳育 ・思いやりのある子ども（相手の立場を考えて）
- 体育 ・健康でたくましい子ども（生活の中に運動習慣を）

学校経営方針

※基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

全体傾向を把握するため、AとBの評価合わせて80%を超えている場合については、よいと判断し、CとDの評価合わせて20%を超えている場合は、改善の余地があると判断した。

【教職員の自己評価から】

・上記の基準から判断すると、すべての項目でA・B評価を合わせて80%以上となり、前回（6月）と比べて、C評価があった項目が6項目に減ったこと（前は11）等を見ても、良好な傾向であると判断される。A評価の割合が市と比較して、10ポイント以上回っている項目が2あったことやA評価が10ポイント以上下がった項目が6あったことなど、来年度に向けて改善をしていかなければならない点も明らかになった。

・C評価があったのは、

- Ⅱ 8 「校内研に主体的に関わっている」（7%）
- Ⅳ 2 「規範意識をはぐくむ指導をしている」（6%）
- Ⅳ 4 「問題行動の早期発見・早期対応ができている」（6%）
- Ⅴ 1 「地域の教育力を活かす指導を行っている」（7%）
- Ⅴ 2 「保護者や地域から情報収集を行っている」（8%）
- Ⅵ 3 「読書活動に取り組む指導をしている」（6%）

の6項目である。

・A評価とB評価の割合を比べて、B評価が50%以上だったのは、

- Ⅱ 2 「危機管理マニュアルを理解している」（B58%）
- Ⅲ 5 「評価基準と評価方法を明確にした授業を行っている」（B57%）
- Ⅲ 9 「年間計画に基づき児童の実態に即して道徳の指導をしている」（B58%）
- Ⅳ 3 「生き方（キャリア）教育を児童の実態に応じて行っている」（B64%）

の4項目であった。

・前回（6月実施）の調査と比べて、A評価が10ポイント以上の伸び率を示しているのは、

- Ⅰ 2 「学校の経営方針に基づき教育活動を行っている」（+18）
- Ⅰ 4 「学校の教育活動計画に基づき、教育実践を行っている」（+13）
- Ⅲ 6 「教材教具や備品等を活用した授業を行っている」（+12）

- Ⅲ 8 「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」 (+13)
- Ⅳ 7 「家庭との連携が十分図れるように努めている」 (+12)
- Ⅴ 6 「地域・保護者は児童生徒の安全確保に努めている」 (+13)
- Ⅳ 4 「学校行事に進んで取り組むよう指導に努めている」 (+12)

の7項目で、意識して取り組んだ成果が表れている。

- ・ A評価の割合が市と比較して、10ポイント以上下回っている項目は、
- Ⅳ 3 「キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている」 (-12)
- Ⅳ 4 「問題行動の早期発見・早期対応ができていない」 (-14)

の2項目であった。

【児童アンケートから】

・ 児童のアンケート結果については、ほとんどの項目でA・B評価合わせて80%を超えているが、C・D評価合わせて20%以上のものは、

- 9 「授業でわからないことを先生に聞いている」 (CD24%)
- 11 「質問や意見を言っている」 (CD39%)
- 16 「今住んでいる地域の行事に参加している」 (CD22%)
- 27 「自分の考えを先生や友達にしっかり話している」 (CD21%)

の4項目あった。

・ 児童アンケートの前回(6月実施)のA評価の割合と比べてみると、10ポイント以上向上した項目はなかった。反対に、10ポイント以上下がったのは、

- 1 「学校は楽しい」 (-10)
- 5 「学校の授業が楽しい」 (-13)
- 8 「算数の授業の内容がわかる」 (-12)
- 9 「授業でわからないことを先生に聞いている」 (-11)
- 11 「質問や意見を言っている」 (-17)
- 13 「学校以外で学年の目標時間の勉強をしている」 (-15)
- 14 「家の人と学校での様子を話している」 (-11)
- 18 「地域の人と出会ったらあいさつをする」 (-10)
- 20 「将来の夢や目標がある」 (-13)
- 21 「学校のきまりや約束ごとを守っている」 (-10)
- 26 「先生や友達の話をしっかり聞いている」 (-10)

の11項目であり、全体的に積極的にA評価をつけない回答が目立った。

- ・ 市の平均と比較して、A評価が5ポイント以上下回っている項目は、
- 2 「クラス(学年)に仲よく遊ぶ友達がいる」 (-7)
- 3 「相談できる友達がいる」 (-5)
- 8 「算数の授業の内容がわかる」 (-5)
- 9 「授業でわからないことを先生に聞いている」 (-11)
- 11 「授業中に質問や意見を言っている」 (-9)
- 12 「宿題を忘れずにしている」 (-8)
- 13 「学校以外で学年の目標時間の勉強をしている」 (-8)
- 16 「今住んでいる地域の行事に参加している」 (-7)

の8項目であった。

・ AB評価を合わせた割合は、8割を超えているが、全体を通してA評価の割合が下がっている兆候がある。

・ 自分から進んで学習したり、発言したりする積極性にやや欠ける本校の児童の実態が明らかになった。

<p>【保護者アンケートの結果から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年前と比較して、ほぼ同様の評価であるが、10ポイント以上下回ったのは、 1「子どもにとって学校は楽しいところだと思う」（-11） <p>の1項目があり、児童の「学校は楽しい」のA評価が下がっているのと同様、留意する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ C・D（E：わからない）評価の割合が10%を超える項目をみると、 2「子どもの仲の良い友達を知っている」（CD10%） 4「学校は保護者・地域住民の声に耳を傾けている」（CDE17%） 6「学校は子ども達の間違った行動に対して指導している」（CDE15%） 8「子どもは授業の内容がわかっていると思う」（CDE18%） 11「先生はわかりやすく勉強を教えていると思う」（CDE10%） 13「家庭で自主学習をしている」（CD55%） 14「子どもに相談できる友だちがいる」（CDE38%） 15「相談できる先生がいる」（CDE29%） 16「学校は、学校外でもあいさつするように指導している」（CDE19%） 19「子どもは地域の行事に参加している」（CD23%） 20「PTA活動に参加している」（CD19%） 21「子どもは将来の夢や希望をもっている」（CD22%） 24「子どもは本を読むことが好き」（CDE27%） 25「子どもは家庭で学校の話をする」（CD15%） <p>が挙げられ、若干ではあるが、学習の支援や親子の会話等に自信のない家庭があることが数値に表れている。</p>	
<p>2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）</p>	
<p>I 学校教育目標に関して・学校経営について II 学校運営について</p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校長から学校教育目標の提案が行われた。本校の実態を踏まえた上での提案で、校長の経営方針の下、一人一人が新たな気持ちで教育活動を行ってきた。 ・ 新しい校務分掌でスタートした1学期は、学校運営上自分の分掌がどのように機能しているか、確かめながら行ってきたため、それぞれの役割が不明確な部分も見られたが、情報交換を密に行い、それぞれの分掌を計画に沿って実施することができた。 ・ 職員数が年々減り、複数の校務分掌を受け持つなど、多忙化に拍車がかかる中、全体的には、意識を高くもって取り組んだ様子が表れている。 ・ 防災マニュアルに対しては、今年度、「実践的防災教育推進事業」の指定を受けたこともあり、教職員の意識も高まってきている。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の人事異動は、学級担任は比較的小さく、順調なスタートすることができた。使命感を持って意欲的に職務を果たそうとする職員が多く、職員全員で学校教育目標の共通理解を図り、教育活動が行われてきた。一方、児童数減少による学級数減で、単級となり、担任一人にかかる負担が増えてきていることから、アクティブ加配や支援員を含む全校体制での支援体制の構築をさらに充実させる必要がある。職員間の連携を図りながら学校運営をしていく。 ・ P D C A サイクルの実行に関しては、これからも各行事等の終了後にアンケートを実施し、課題を明確にした上で、次回（次年度）の計画に生かすよう努める。

Ⅲ 学習指導について（児童用アンケートの結果も含めて）	
達成状況	<p>・教師の自己評価の</p> <p>I 2 「学校の経営方針に基づき教育活動を行っている」 (+18)</p> <p>I 4 「学校の教育活動計画に基づき、教育実践を行っている」 (+13)</p> <p>Ⅲ 6 「教材教具や備品等を活用した授業を行っている」 (+12)</p> <p>Ⅲ 8 「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」 (+13)</p> <p>IV 7 「家庭との連携が十分図れるように努めている」 (+12)</p> <p>V 6 「地域・保護者は児童生徒の安全確保に努めている」 (+13)</p> <p>VI 4 「学校行事に進んで取り組むよう指導に努めている」 (+12)</p> <p>等で、A評価の割合が前回より高くなっており、職員が意識を高く持って学級づくりや授業づくりに取り組んでいることがうかがえる。</p> <p>・学習指導については、校内研究や自主的な研修会を通しての教育技術の向上を図り、業前の児童への朝学習の取組等を通して日々実践を積み重ねている。しかし、児童アンケートの結果、</p> <p>5 「学校の授業が楽しい」</p> <p>8 「算数の授業の内容がわかる」</p> <p>9 「授業でわからないことを先生に聞いている」</p> <p>11 「質問や意見を言っている」</p> <p>13 「学校以外で学年の目標時間の勉強をしている」</p> <p>の項目は、以前から本校児童の課題であったが、今回も、A評価の割合が市の平均を下回った。引き続き、自分の考えをしっかりと話せる児童の育成を図るとともに、保護者と連携しながら、家庭学習の習慣を確実につけ、特に、12で「まったくしない」と回答した3%の児童の指導が必要になる。</p>
改善策	<p>・本校児童は、学校生活全般において、積極性に欠けると言われてきた中で、授業を中心に学校生活全体で、児童の表現力の育成を目指して取り組んできた。また、防災教育に力を入れ、自主的に行動し、判断する力も培ってきた。児童の変容を期待して、これらの取組を継続していく。</p> <p>・本年度も学校全体で「家庭学習」の定着を目指す取組を推進した。引き続き、職員間の共通理解を図り、学年の目安として、学年×10+10分の家庭学習の時間を設定し、「家庭学習の手引き」を全児童・全世帯へ配布した。今後も更に家庭と連携を深め、指導を継続し、この項目の結果を見守っていく。</p>
Ⅳ 生徒指導について（児童用アンケート結果も含めて）	
達成状況	<p>・教師の自己評価の</p> <p>IV 2 「規範意識をはぐくむ指導をしている」</p> <p>IV 4 「問題行動の早期発見・早期対応ができています」</p> <p>の項目にC評価があると同時に、A評価の割合が市と比較して10ポイント以上下回っており、組織的な対応に課題があることが浮き彫りになった。</p> <p>・生き方教育（キャリア教育）については、C評価はないものの、A評価の割合が市と比較して、10ポイント以上下回っており、意識して取り組む必要がある。</p> <p>・自己評価から、地域や家庭との連携が課題と捉えている教師が多いことがわかる。</p>
改善策	<p>・規範意識を育む指導については、引き続き職員間の共通理解を図りながら、全校体制で粘り強く取り組んでいく。</p> <p>・キャリア教育については、これからも、教育課程に位置づけられた全体計画を意識し、学年ごとの年間指導計画に応じ、今年度、成果を上げた防災教育に関連させながら、学校教育全体で行われるようにしたい。</p> <p>・家庭や関係機関との連携がより図られるよう、情報の共有化とスピード化を意識しながら生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。</p>

V 地域との連携について	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の自己評価の <ul style="list-style-type: none"> V 1 「地域の教育力を活かす指導を行っている」 V 2 「保護者や地域から情報収集を行っている」 の項目にC評価があるものの、 <ul style="list-style-type: none"> IV 7 「家庭との連携が十分図れるように努めている」 V 6 「地域・保護者は児童生徒の安全確保に努めている」 VI 4 「学校行事に進んで取り組むよう指導に努めている」 <p>の項目で、前回よりA評価の割合が増え、教員一人一人の積極的な情報収集をしようとする姿勢が数値に表れている。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌や立場の違いで、保護者や地域からの要望や情報の収集の仕方も変わってくるので、学年部会や家庭訪問、個別懇談等あらゆる機会を利用し、情報を発信するだけでなく、保護者や地域の意見を聞くことにも力を注ぎたい。 ・学校だよりや学年だより、ホームページを使って、これまでどおり学校の教育活動を地域や保護者に知らせていく。必要に応じて、各地区の自治会の協力を得ながら、回覧版も活用したい。また、これからも、ホームページにタイムリーな話題を載せるよう心がける。親しみをもてるように内容、画像等をさらに工夫するとともに、担当だけに負担がかからないように、全職員で題材の提供や取材の協力を行っていく。
VI 学校の特色に関して（児童用アンケート結果も含めて）	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・9割の児童が「読書が好き」と答えているが、読書量・質に個人差が見られる。「まったく読まない」と回答した児童が15%もいることは課題である。 ・児童アンケートの <ul style="list-style-type: none"> 18「地域の人と出会ったらあいさつをしているか」 <p>では、前回、前々回よりA評価が下がっている。あいさつ運動に取り組んできているが地域では、あいさつしない児童が増えてきている。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・読書に関しては、引き続き、図書だより等で保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。特に、夏季休業中に「親子読書」等の取組を実施していく。 ・あいさつに関しては、防犯パトロール隊や地区懇談会等、地区や保護者対象の会議の折に「声かけ・あいさつ運動」の推進をお願いしてきている。引き続き、あいさつ・声かけ等を地域・保護者と共に協力して行っていく。 ・児童会の「あいさつ運動」と連携して継続して指導し、登下校時にも挨拶する習慣をつけていく。

3 まとめ

〈成 果〉

前回の評価結果から、次の点が課題として上がっていた。

- ①「実践的防災教育推進事業」の指定を受けているので、危機管理マニュアルの共通理解を図るとともに、安全教育を推進し、「命を守り、生きる力を身につける子どもの育成」に取り組む。
- ②「家庭学習のてびき」の取組を定着させることと、「していない」と回答した児童について、家庭と連携しながら指導し、学力の向上を目指す必要がある。
- ③「授業中に質問や意見を言っている」児童は増えたものの、「授業（勉強）でわからないことがあったら先生に聞ける」で、市全体よりも「A評価」が低いので、これまで取り組んできた「豊かな表現力の育成」の指導に引き続き取り組んでいく。
- ④現段階では、不登校傾向の児童はいないが、きめ細かな生徒指導を行い、「楽しい学校づくり」を推進していく。特に「クラス（学年）に仲良く遊ぶ友達がいない」「困ったときに相談できる友だちがいない」と回答した児童が少数ながら存在することから、日々の観察から得た情報とともに「Q-U検査」等の結果も参考にしながら学級経営をしていく。

①について

- ・「実践的防災教育推進事業」を校内研究の中心に据え、全職員で取り組んできた。児童に、自主的に判断し、行動する力を育成するような実践を積み重ねることができた。

②について

- ・本年度も「家庭学習の手引き」を家庭へ配布し、家庭での支援をお願いしたことで、熱心に家庭学習に取り組む児童が増えてきている。しかし、前回よりC・D評価が増え、両極化が進んでいることに留意する必要がある。

③について

- ・「豊かな表現力の育成」について、本年度は、校内研究で防災教育を積極的に授業に取り入れた実践をしてきた。その結果、従来の教科指導以上に児童の「楽しかった」という感想が聞かれ、発言も活発になった事例が多く認められた。この成果が多くの授業にも有効な手立てとなることがわかり、教師の自信につながった。

④について

- ・「実践的防災教育推進事業」の取組の中で、自助・共助の考え方が児童にも浸透し始め、避難訓練などの場面で、声を掛け合ったり、助け合ったりする姿が多くみられるようになった。

〈課 題〉

- ・来年度に向けて、今回、自己評価の低かった項目、特に「規範意識をはぐくむ指導」「問題行動の早期発見・早期対応」「地域の教育力を活かす指導」「保護者や地域からの情報収集」「読書活動に取り組む指導」について、謙虚な気持ちと教育専門職としての自負をもち、年間を通した取組を行っていく。